

MAHOROBA

—愛知県額田地区の自然を活かした滞在空間の設計—

梶本雅好研究室 設計 伊藤夏海

“MAHOROBA”とは「素晴らしい場所」「住みやすい場所」
という意味の日本の古語です。

最後に自然を美しいと感じたのは、いつですか？

自然に囲まれ、深呼吸をしたのは、いつですか？

愛知県額田地区の風光明媚な地へ一度訪れに来てください。

目まぐるしい毎日を忘れ、風趣のある味わいを

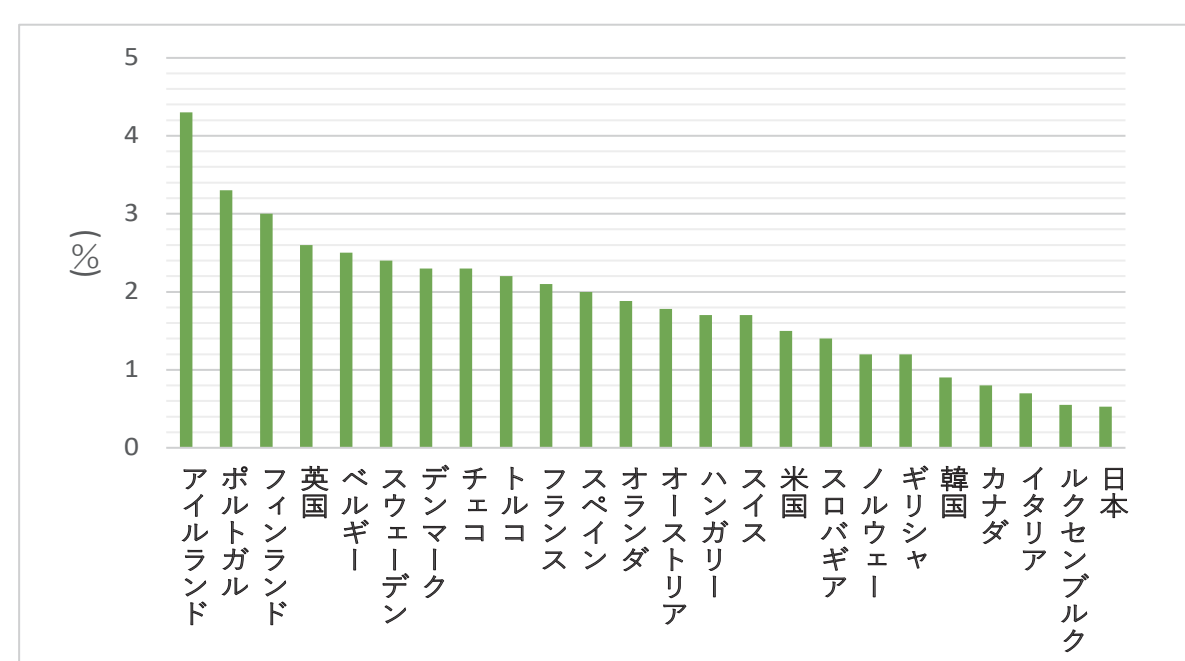
何もないけど、何かある。

自然を活かした滞在空間へ、ようこそ。

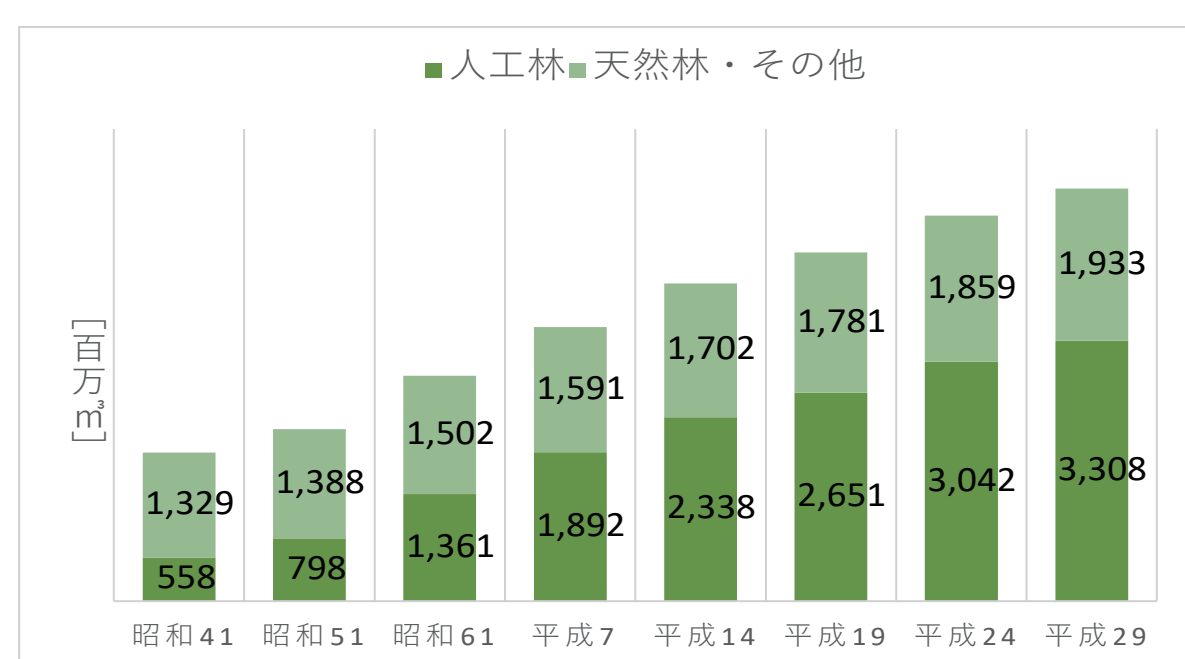
忘れがちな幸せを、日常へ。

—日本の森林問題—

日本の森林資源に対する年間伐採量



日本の森林蓄積の推移



—背景—

日本は国土の3分の2を森林が占める木材資源に恵まれた国。
その中でも額田地区は面積が160km²でその約86%が森林である。

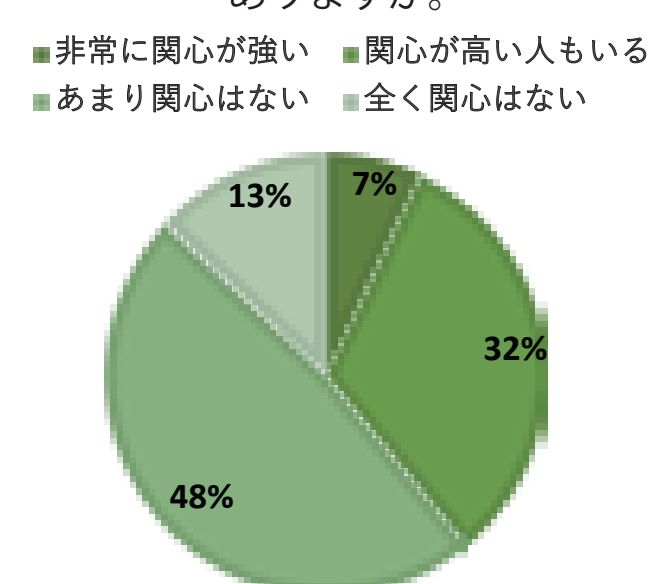
しかし、1960年代から外材の需要が高まり、
国産材の供給は低下の一途を辿っている。
今も多くの森林資源があるが、林業の衰退が著しく、
120以上あった製材所も、今や15程度に減少。
生きた森も整備が行き届かず、豊富森林資源はあるものの、
増えすぎた森林蓄積は土砂崩れなどの環境問題を引き起こす。

人々の関心は薄く、気持ちがあったとしても
実際に赴く人は数少ないのが現状だ。

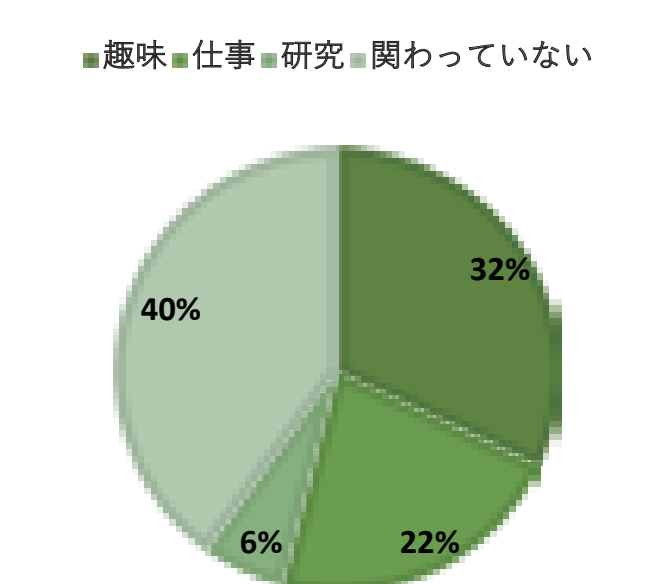
しかし私たちは、近くの里山の恵みを受け、
生きていく日本文化、人々の自然の恵みを大切にする
想いを継承しなければならない。

—人々の関心—

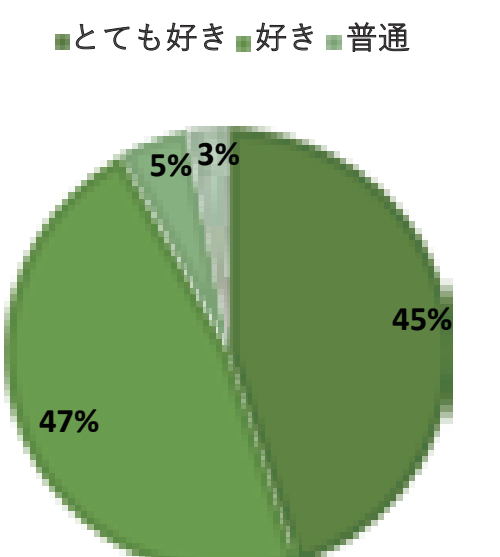
森林に対して関心がありますか。



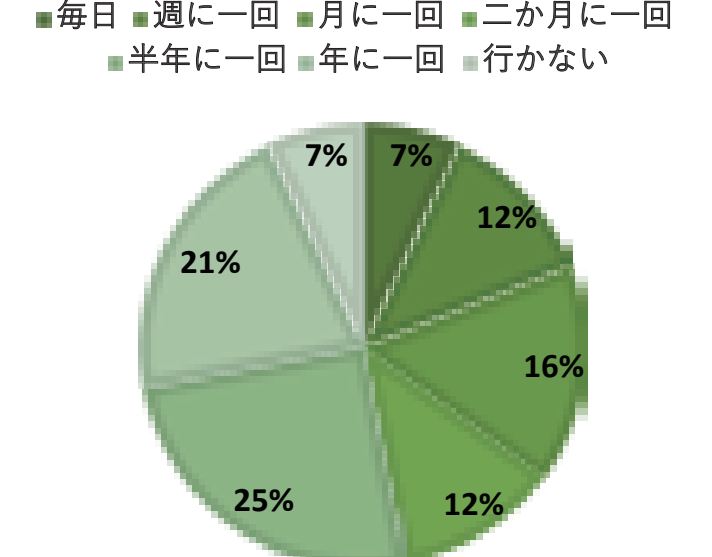
森、山に関わることはありますか。



どの程度森が好きですか。



年に何回程度、山や森に行きますか。



—敷地—

旧額田町は 1956 年、豊富、宮崎、形埜、下山の 4 村が合併して町制施行。

2006 年 (平成 18) 岡崎市に編入。面積が 160k m²で、その約 89%が山林である。

明治半ばまで山焼きが行われていたが、周囲の私有林にまで燃え移ることが多く、雑木林になっていった。

明治の半ばになり、木材の需要と価格の上昇に伴い、山林改良が日本各地で叫ばれるようになり積極的に植林事業を進めた。

しかし、森林の優良材を産し栄えてきたものの、林業の低迷と共に人口流出と高齢化が進行し、荒れた人工林も目立つようになってしまった。

額田の大きな二つの魅力。額田だから湧き出る『硬度 0.2』という極めてやわらかな幻の軟水の存在、そして敷地の約 86%を占める森林。



1. 庚申の水



2. 大岩の水



3. 産湯の滝



4. 延命水



+

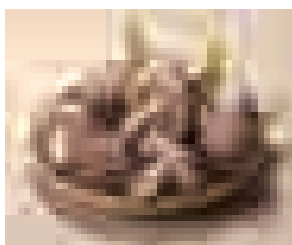
森林



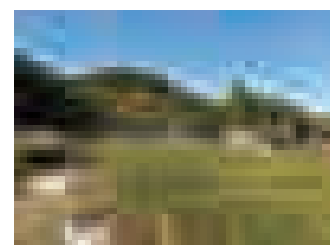
—特産品—



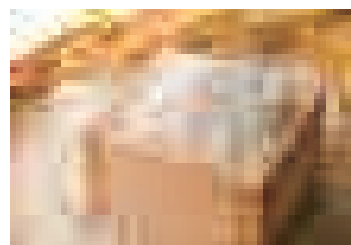
ゆず



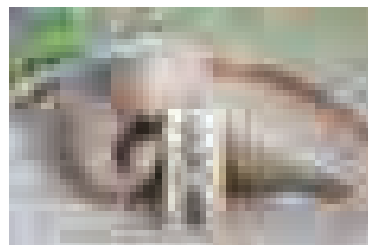
椎茸



宮崎茶



ミネアサヒ



自然薯



茄子

—目的—

—現在日本では多くの外材を使用。

国内材の需要が低下していき手入りがされなくなり森が荒れ、

美しい自然が失われ、人は自然の恵みを忘れてしまう。

—コロナ禍により、屋内での三密を避けた“アウトドアブーム”の到来。

登山、ハイキング、キャンプ etc... さまざまな名勝で楽しめる。

額田地区も名勝のひとつに。

—本設計は、野趣に富み、風光明媚な額田地区で行う。

目まぐるしい毎日を忘れられる、土地の自然を最大限に活かした

滞在空間を目的に思考。

—手法—

敷地調査を一年に渡り、実施。過程で自然の美しい風景を見つけ設計を計画。

インタビューを通し、森林、名水について知り詳細を調査。

—対象—

額田地区で山歩きを楽しむ老若男女。

自然の美しさを忘れてしまっている若者。

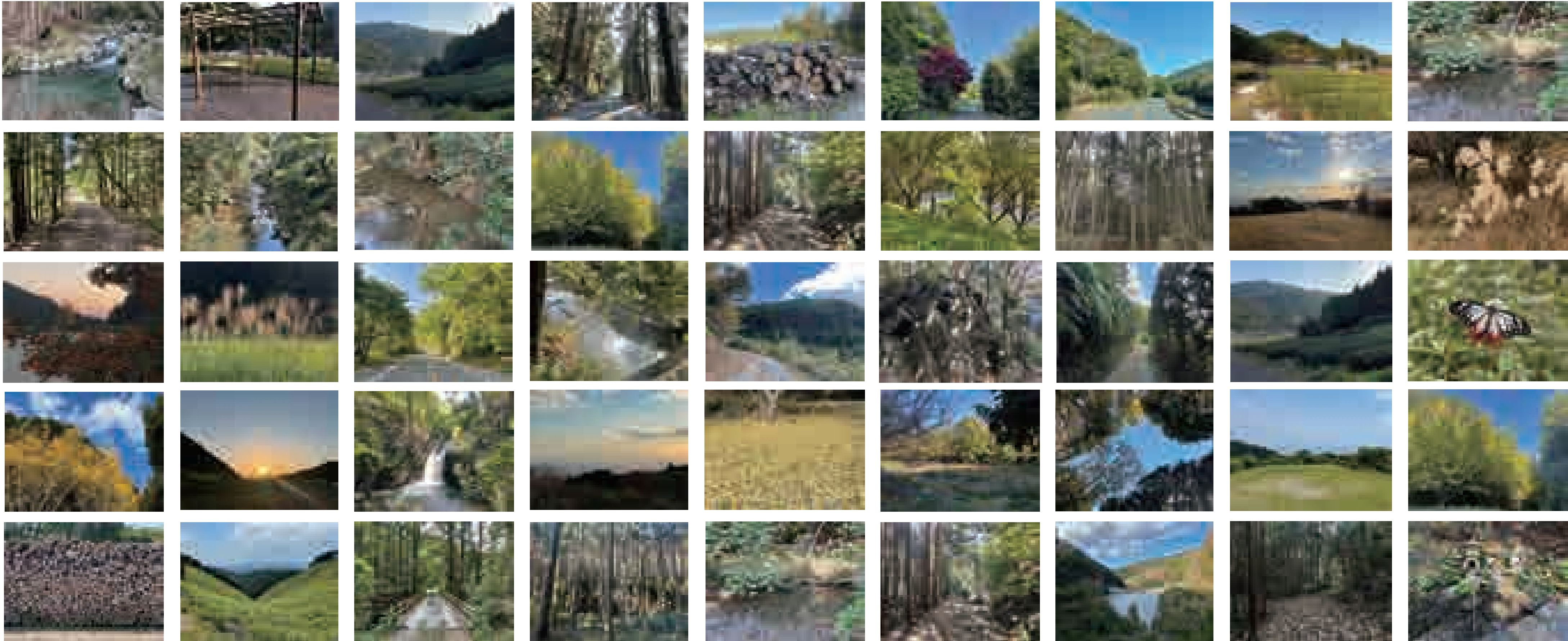
コロナ禍で、外を思いっきり楽しめていない子供、

ストレスを抱えている人。

蜜を避け遠出できていない家族

—そんな、さまざまな層の方へ来て頂きたい場所。

—額田の MAHORIBA—



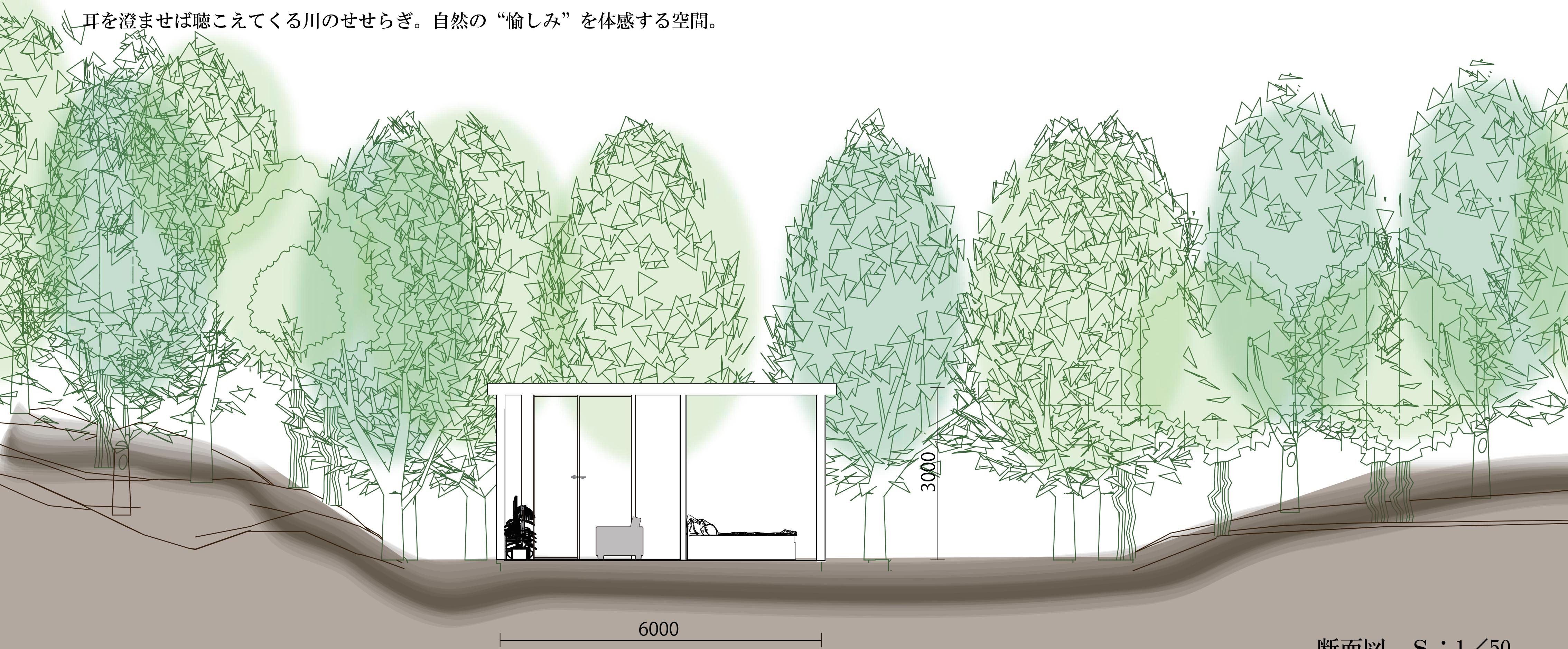
ゆらぎを愉しむ。

水をテーマとした、自然の音を聴きながら静かに過ごせ宿泊する滞在空間。

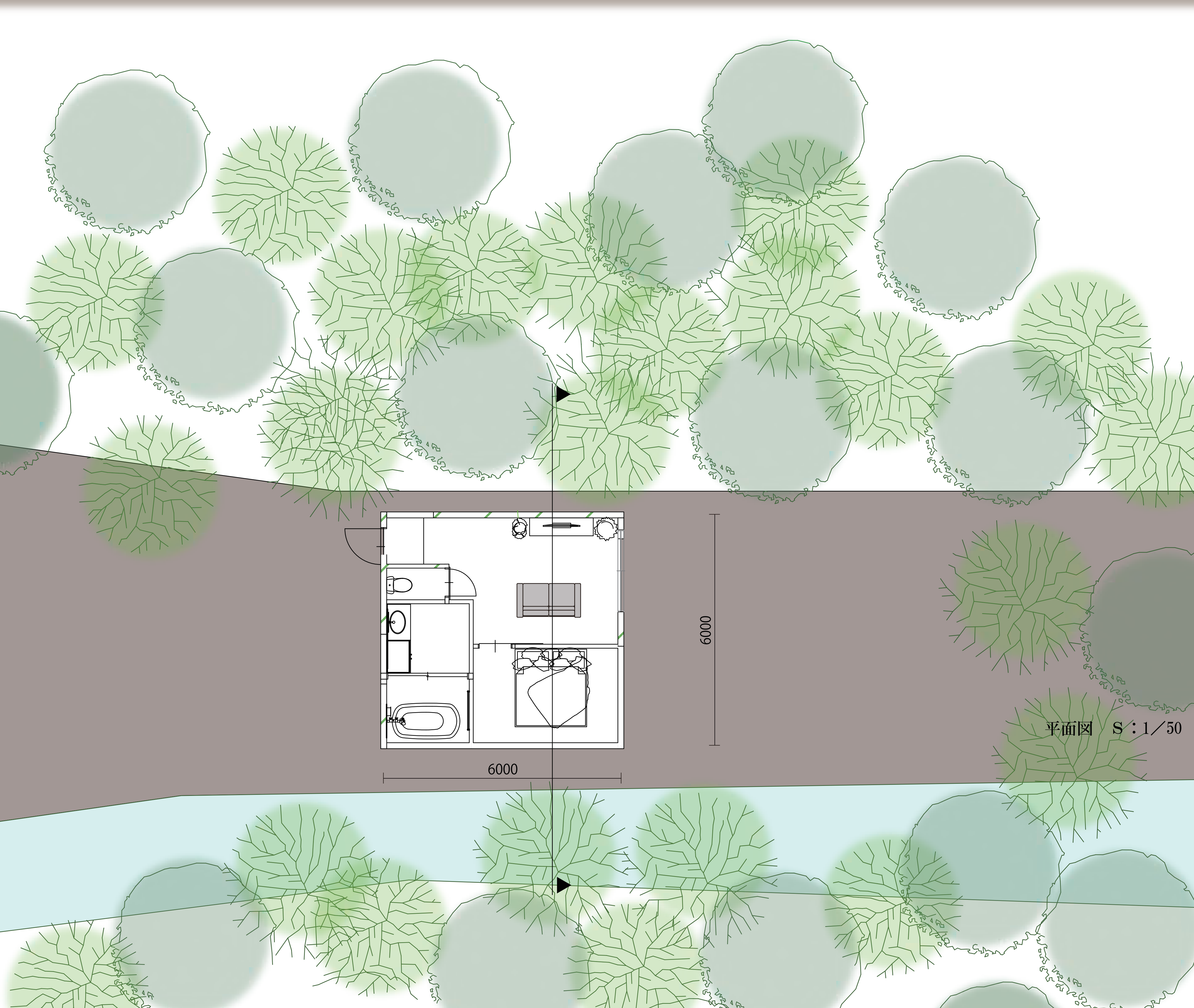
一級河川 矢作川水系 鳥川 認定 川、木、陽、空、自然発生によるゆらぎを見て愉しむ。

街のざわめきもない、誰もいない空間、そこにあるのは自然に包まれた額田の森林から生まれた一棟の檜香る家のみ。

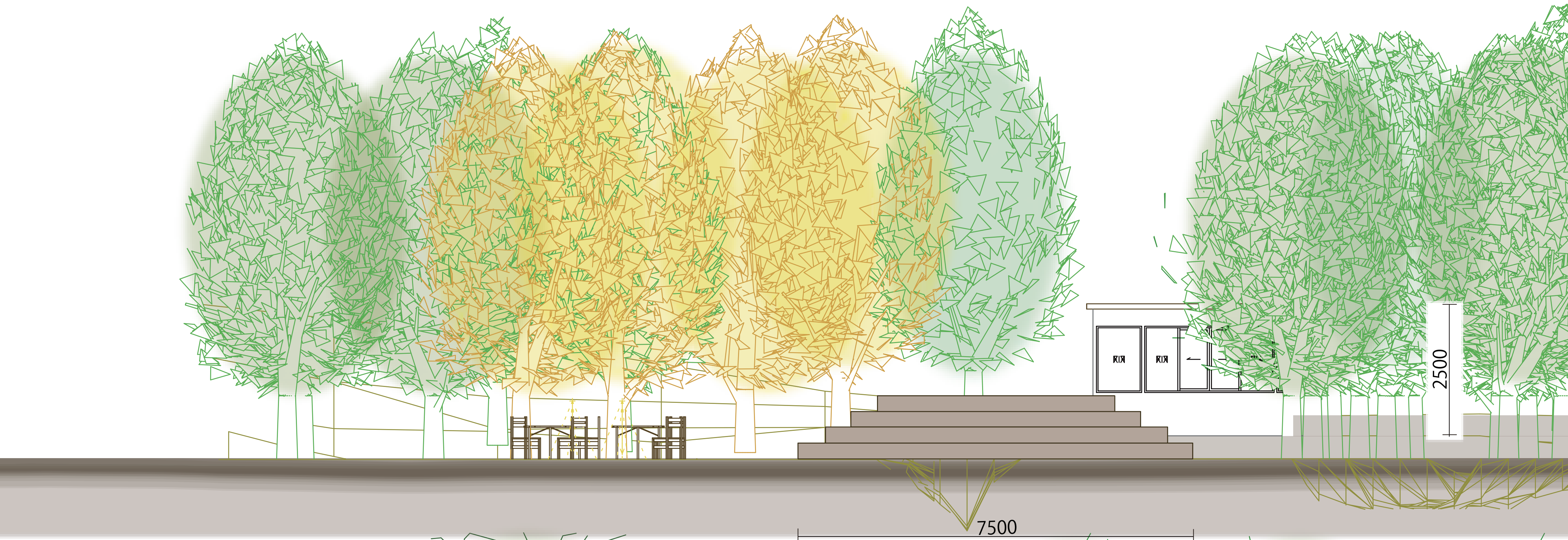
耳を澄ませば聴こえてくる川のせせらぎ。自然の“ゆらぎ”を体感する空間。



断面図 S : 1 / 50



平面図 S : 1 / 50



立面図 S : 1 / 50

Terrace - mori -

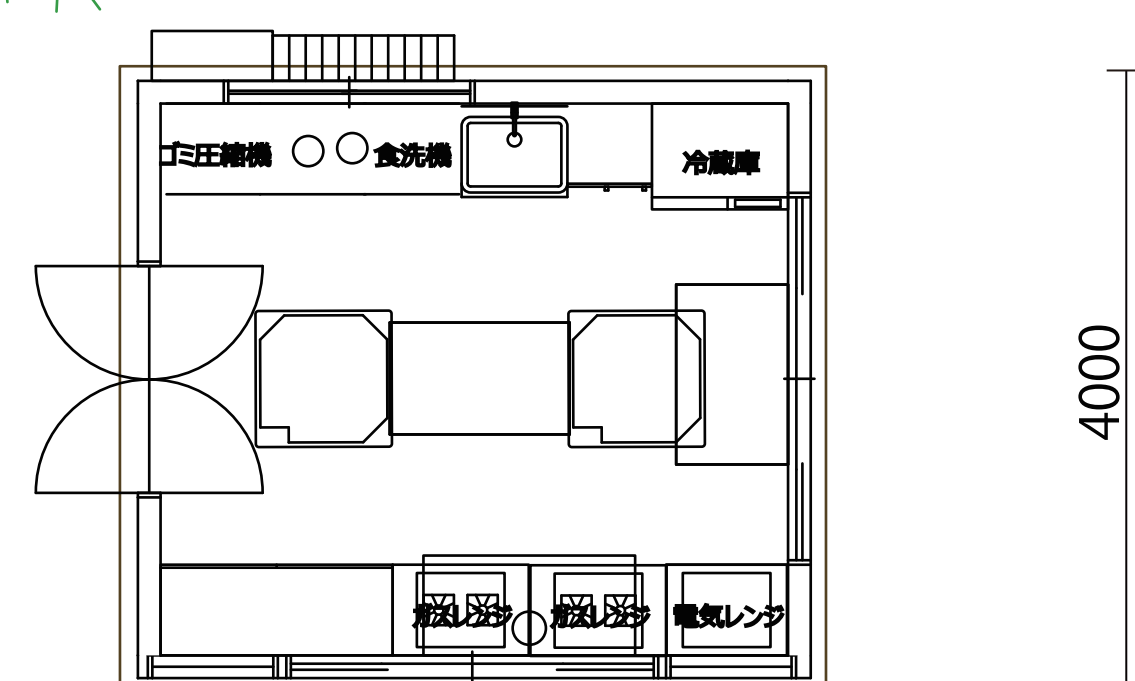
1. 小景を見る。

それぞれの木々達を眺めながら飲食を楽しめる滞在空間。

額田の郷土料理である椎茸、自然薯、ミネアサヒ、
茄子、柚、宮崎茶などをメインとし提供。

四季により変化する木々達の小景。

ひっそりと森を楽しめる空間 × 陽光の当たる銀杏の下。



4000

4500

階段椅子

7500

9500

平面図 S : 1 / 50

2. 野趣に富む。

自然そのままの野趣あふれた木々達。

道路から隠れ、見つけるのが困難な森の中。少し足を踏み入れと広がる空間。付近には名水の産湯の滝と延命水がすぐそばに。

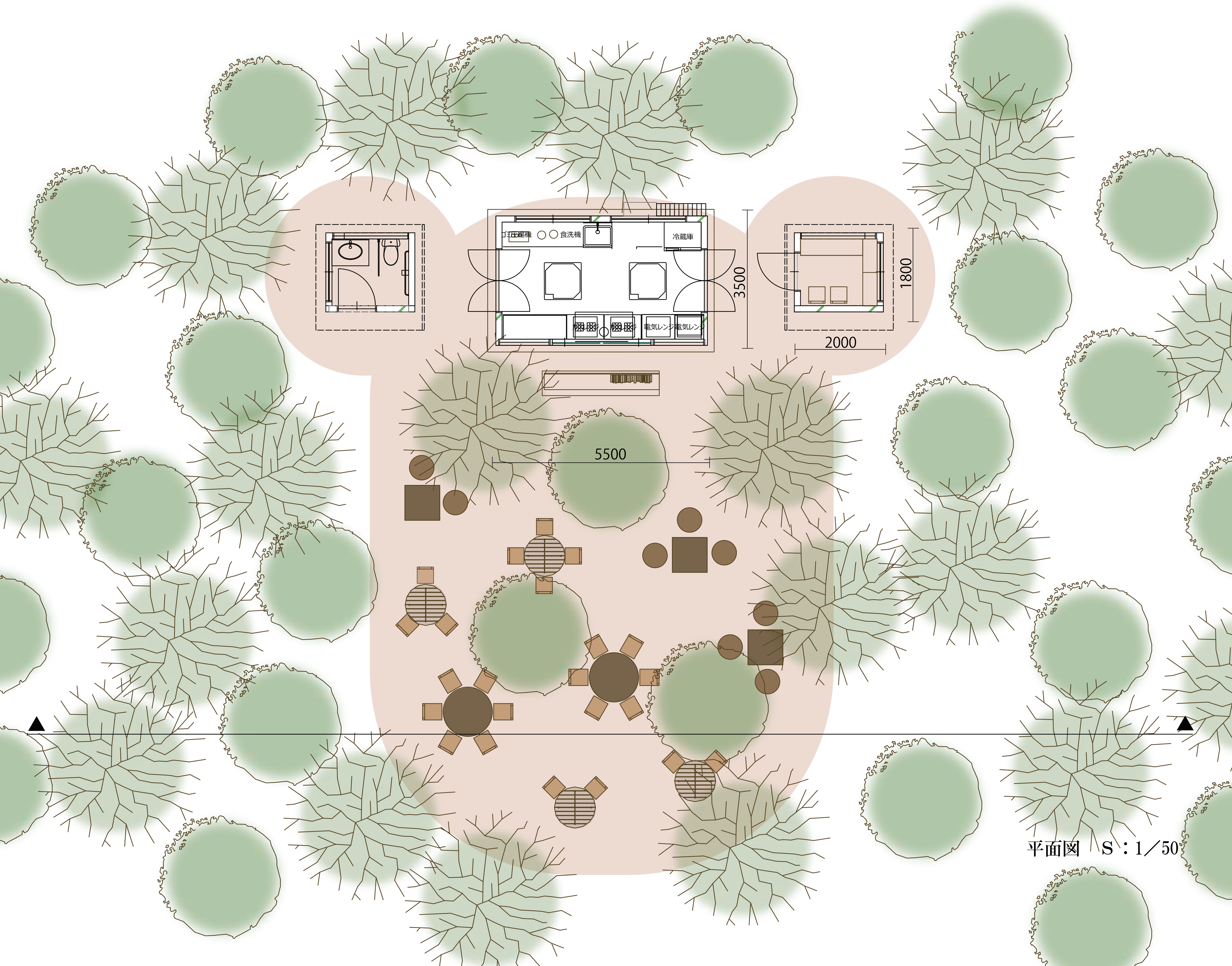
野趣あふれた木々達に包まれながら、穏やかなゆっくりとしたひと時を過ごす。



5500

2000

立面図 S : 1/50



5500

3500

2000

1800

平面図 S : 1/50

ゆらぎを愉しむ。



唯一の宿泊施設。
額田の地で額田から生まれた一棟、
森の中に隠れ、誰もいない空間を満喫する。
目の前に流れる川は一級河川 矢作川水系 鳥川。



玄関を開けると広がるリビング。
掃き出し窓から見える景色。
どこまでも自然美が広がる。
窓を開ければ森の香りと鳥のせせらぎ。



鳥川に面するベッドルームとバスルーム。
川の向こう川へ移動は出来ず、
鳥川と森林たちがプライバシーを守る。



朝日で目覚めるベッドルーム、
贅沢な自然と気持ちの良い朝を
独り占め出来る場所。

小景を見る。



安穏とした道を通り抜けた先にある
額田の特産品をメインに使用するカフェ。
季節により見える小景が異なる。



気軽に座れる階段椅子と、
しっかり小景を堪能できる銀杏の木の下のテラス席。
森の散策途中、少しだけ休憩でも。



厨房からはお客様の様子を伺うことができ、
お客様からは作っている様子を見ることが出来る。



それぞれの場所で異なる木々達を眺めながら、
飲食を堪能する。

野趣に富む。



「小景を見る。」より多くの席を用意しているため、
ゆっくりと料理を楽しめる。



もちろん席からは野趣に富んだ自然美を見れ、
木々達に包み込まれる。



「小景を見る。」と同様に厨房からはお客様の様子を伺うことができ、
お客様からは作っている様子を見ることが出来る。



両サイドにはお手洗いと従業員用の事務所。
左右対称とし、森の中に一体感を演出。